



I 今年度の取組と自己評価

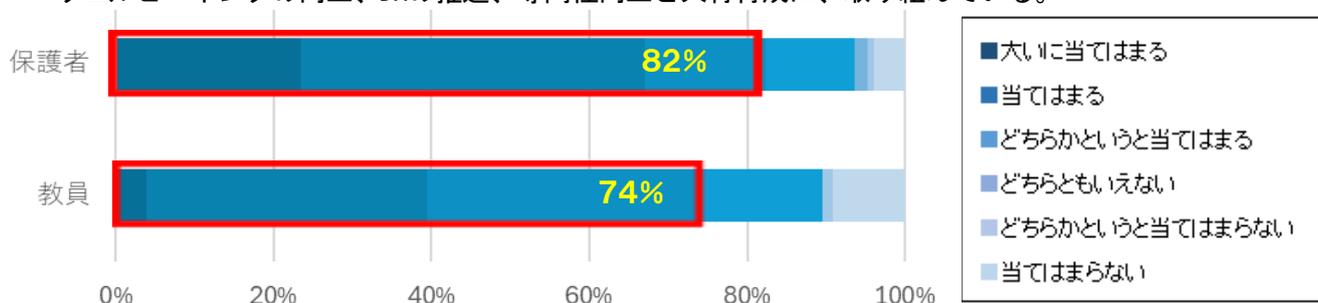
学校の全ての取組の基本姿勢として、昨年度より掲げている「優しく」を今年度も継続し学校運営を進めてきた。また、「優しく」に込められた思いをより分かりやすく組織として共有するために、「優しく」は「『優しく』心を込めて 丁寧に 伝えることで、伝わり、そして繋がっていく」ことと伝え、学習場面だけでなく、分掌業務をはじめ全ての取組において、このことを意識し取り組みを進めるよう努めてきた。

また、計画 ⇒ 評価 ⇒ 改善がより確実に進むよう学校評価の改善に取り組み、「課題がわかりやすく、改善につながりやすい」視点で、評価項目だけでなく全体の構成も含めた変更を行った。これにより『良い』点や『課題がある』点が把握しやすくなったと考えている。新たな学校評価による今年度の成果と課題を以下の通り報告する。（自己評価【大いに達成：◎ 達成：○ 一部達成：△ 未達成・未実施：×】）

1 重点のとりくみについて

【自己評価：◎】

学校は、「優しく」をキーワードに、全ての活動において「心を込めて、丁寧に」の姿勢で、ウェルビーイングの向上、DXの推進、専門性向上と人材育成に、取り組んでいる。



肯定的評価は、保護者が8割、教職員は7割を超えている。保護者からは、「優しい」「心を込めて丁寧に」に関する記述が多数あり。この姿勢が学校の雰囲気を作っている、という意見があった。教職員からも、「優しく」→「ゆるく」ではなく、「心を込めて、丁寧に」を軸に取り組みたいという意見や、他の学校にはないカラーで良いという意見があった。引き続きこの重点目標は大切にしていきたい。

2 学校運営全般

※ 保護者、教職員の数値は各項目の満足度を10段階で評価し7段階以上を肯定的評価として算出
生徒は、各項目の肯定的な数値の合計 複数の数値がある項目は平均で算出

<学習指導> 保護者(83%) 教職員(54%) 生徒(91%) 【自己評価：○】

学習指導全般について、保護者からは高い評価を得ることかできた。「授業内容」について23名(18%)、一人一台端末の活用について19名(15%)の保護者から『良い』との回答を得ている。一方で『課題のあり』とした方も、それぞれ11名(8.6%)、13名(10.6%)いた。自由記述には国語・数学の個別指導や、タブレット端末のより積極的な活用について意見が寄せられていた。次年度の課題とする。

教職員は、授業内容と個別指導計画について『課題あり』とした人数が『良い』とする人数を大きく上回る結果となっている。より良い授業に向けた前向きな課題意識からの厳しい結果と推察する。また、授業準備のための時間の確保についての意見も少なくなかった。そうした時間の確保を進める。

<進路指導・キャリア教育> 保護者(75%) 教職員(54%) 生徒(92%) 【自己評価：△】

「丁寧に相談に乗ってもらえてありがたい」という意見が多数あった。一方で、「情報提供」について課題ありとした方が25名おり、他の項目に比べて突出して高い数値となっている。学校運営連絡協議会では、進路に関する情報自体の難しさも一因として、伝え方の内容や回数工夫について助言を受けた。今後はオンデマンドによる情報提供等、受け手側の状況やニーズを踏まえた情報提供に取り組む。

また、職場実習の時期や回数について保護者、教職員の双方から複数の意見があった。これを受け次年度の実施時期を早めるよう改善を行った。

<生活指導> 保護者(77%) 教職員(59%) 生徒(87%) 【自己評価：○】
 生活指導全般についても目立った課題はなく、学校の取組に対し一定の評価を得られている。一方でスマホの使い方、SNS ルール、挨拶や姿勢、身だしなみ等について、学校での指導に対するニーズは高い。引き続き、「伝わる」ことを大切にしながら、行事的な取り組みの精選と合わせ、日常の場面での継続的な指導が設定できるよう工夫をしていく。

<特別活動・総合的な探究の時間> 保護者(82%) 教職員(55%) 生徒(93%) 【自己評価：○】
 部活動について、保護者・生徒（活動内容の充実）、教職員（指導体制や運営）、双方から改善に向けた指摘があった。教職員の働き方改革、外部人材の活用と合わせ、引き続き検討していく。
 修学旅行については、令和8年度から反映できるよう行き先や内容についての検討を始めた。

<学校経営> 保護者(78%) 教職員(50%) 生徒(87%) 【自己評価：△】
 保護者の数値結果からは目立った課題は見られなかったが、自由記述からは教職員も含めSNS等による情報発信が不足しているとの指摘が多くあった。これについては、外部人材を活用した改善計画を作成し対応を進めている。また、自由記述で指摘のあった保護者会の開催方法や配布物の電子化、教職員の超勤時間の縮減（働き方改革）についても、それぞれ対応を進めていく。

3 数値目標の取り組み結果 【自己評価:大いに達成:◎ 達成:○ 一部達成:△ 未達成・未実施:×】

- (学習指導) ▶ 研究授業(各教員年1回以上) 【○】
- (進路指導・キャリア教育)
 - ▶ 卒業生の進路先決定(100%) 【×】
- (生活指導) ▶ 生徒事故 0件 【○】
- (特別活動) ▶ 各部活動大会等参加(各年1回以上) 【×】
- (入学相談・募集・広報活動)
 - ▶ 職能開発科説明会参加者(650人以上) 【×】
 - ※実施回数を17回(603名)⇒13回(491名)に減じたため。説明会1回あたりの平均は35名 ⇒37名に増加。
- (保健指導・給食)
 - ▶ 生徒のメンタルヘルスケア・医療的ケア・アレルギー対応に関する研修(年5回以上) 【○】
- (学校経営)
 - ▶ 人権に関する研修(年3回以上) ⇒ 4月、10月、12月、2月 【○】
 - ▶ 八丈分教室への校長訪問(年8回以上) ⇒ 5月、6月、7月、9月、10月、12月、1月、2月、3月 【◎】
 - ▶ 生徒・保護者・教職員の学校への満足度平均(7/10以上) 【△】
 - ▶ 月45時間超過勤務者(月平均5名以下)
 - ▶ 大学や地域との連携(10団体以上) 【◎】
 ⇒昭和女子大、テンプル大、日本大、白百合女子大、東洋大、もみの木保育園
 三宿中学、下馬図書館、下馬二丁目町会、世田谷区まちづくりセンター
 四二〇商店会、tokyo coffee Lab. 他
 - ▶ 服務事故(年0件) 【○】
- (学校事務) ▶ 学校事務に関する事故(年0件) 【○】

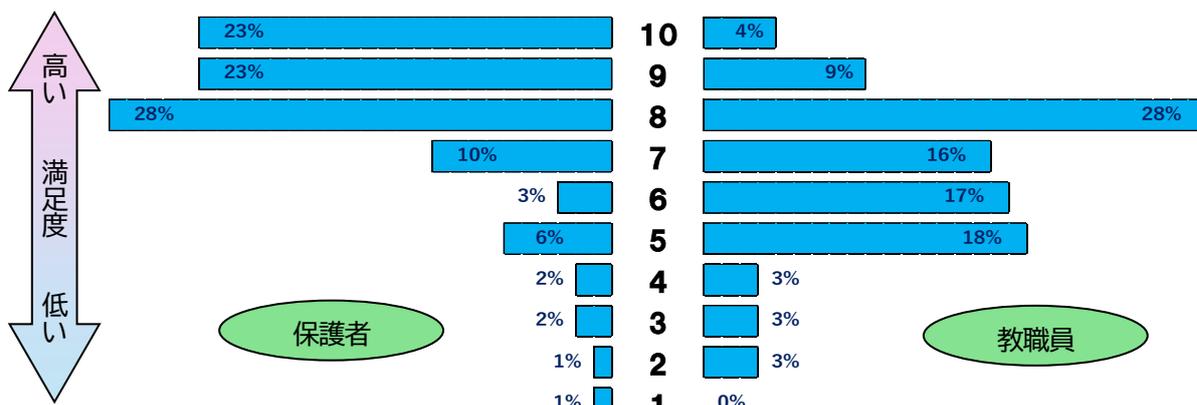
4 学校の満足度

保護者（83%） 教職員（57%）

【自己評価：◎】

10段階評価の平均は、保護者：7.98 教職員：6.72。7点以上を肯定的な評価としてその割合を算出したところ、上記の数字となった。保護者からは、子供が毎日楽しそうに学校に通っていること、学校生活を通して成長していることが実感できている、といった言葉が寄せられている。教職員からは、教員間の繋がりや連携がより強まることを望む声があった。

《青鳥特別支援学校の満足度（10段階評価の割合）》



II 翌年度以降の課題とそれに対する改善策

令和7年3月に特別支援教育推進計画第二期第三次実施計画、そして東京都教育施策大綱が公表された。国の動きを踏まえ、今後の東京都が進める教育の方向性が示された。本校に直接かかわる内容としては、職業教育の充実やデジタルを活用した教育活動の推進、そして都立高校との連携やインクルーシブな教育の推進が挙げられている。本校は、こうした国と都が進める特別支援教育の動きを踏まえるとともに、今年度の学校評価の結果をもとに、今後が取り組むべき主な課題として以下のように設定し、改善に向けた取り組みを進める。

引き続き、「優しく」を全ての取組の基本姿勢として、教職員のウェルビーイングを高めながら、学習活動の充実、そして保護者・生徒の満足度の向上に努めていく。

- 映像を活用した情報発信の充実 ⇒ 外部専門家の活用と推進する組織体制の構築 X、YouTube 他
- デジタル端末を活用した、学習活動の発展および業務の効率化 ⇒ 生成AI、作業学習
- 高等学校とのインクルーシブな教育の推進 ⇒ 本校＝分教室＝八丈高校での生産品連携
- 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に関する取組目標の達成